

## 日本マス・コミュニケーション学会

### 第 37 期第 11 回理事会・議事録

日時：2020 年 10 月 10 日（土）12:20～13:40

場所：オンライン開催（Zoom）

出席者（23 名）：理事＝赤木、李、飯田、井川、井上、音、佐伯、佐幸、佐藤、鈴木、高井、土屋、津田、丹羽、林、福間、水越、水島、山田、吉見、渡辺。 監事＝小川、辻。

欠席者（2 名）：理事＝河崎、日高

事務局出席者（4 名）＝稲葉、宇田川、神谷、近藤。

#### ■報告事項

##### 1. 一般会務報告

##### 1) 事務局報告

- ・ 秋季大会の進行状況について報告がなされた。

##### 2) 委員会報告

##### ① 将来構想 WG

- ・ 今後開かれる WG において、研究会活動に関する議論を進めることが報告された。

##### ② 企画委員会

- ・ 大会初日午前の部で通信トラブルがあったこと、現在は原因も判明し、正常に行われていることが報告された。

##### ③ 研究活動委員会

- ・ 前回の理事会以降、2 つの研究会があったことが報告された。

④ 編集委員会 【資料 1】

- ・ 学会誌 98 号の査読において、継続して審議してきた査読論文評価シートを試用したことが述べられ、学会誌 99 号において正式に同シートを採用することが報告された。
- ・ 学会誌 99 号の特集テーマならびに執筆候補者について報告された。

⑤ 国際委員会

- ・ 韓国言論学会に対して、来年度の日韓シンポジウムを日本で開催したいと提案していることが報告された。現在、韓国側次期執行部の意向をとりまとめており、それが決まり次第、協議が再開されることが述べられた。

⑥ 広報委員会

- ・ 学会ウェブサイトに掲載する情報の運用方針について報告がなされ、各委員会に対して運用が呼びかけられた。

⑦ 次世代委員会

- ・ 若手参画のための具体的な指針について、将来構想 WG の場で議論する予定であることが報告された。

⑧ 学会名称問題検討チーム

- ・ 2020 年 9 月 18 日に総務委員会（参加者・敬称略：有山、大井、谷藤、濱田、佐藤、吉見、津田）が開催されたことが報告された。学会名称に関して以下の議論があったことが述べられた。
- ・ 春季大会がオンラインになった場合、学会名称変更に関する議決をどのように行うのか。

→先般行われた規約改正によって、「通常の形式での総会開催が困難である場合に限り、電磁的方法による開催も認められることとする」となったため、形式上は電

磁的方法によって議決を取ったとしても問題はない。だが、できるだけ多く会員の意見をすくい取る仕組みを考えると考えている。

- ・ 学会名称の変更を提案する際に、日本語名称・英語名称・規約の変更をセットで進めると考えられているが、その場合には部分的に反対という意見がでるのではないか。一つずつ変えるという方向もあり得るのではないか。

→どれか1つだけを変えるというのは論理上難しいため、セットでの変更はやむを得ないと考えている。今後、総会までに議論を尽くして案を提示したい。

- ・ 学会名称の変更によって、どれくらい会員の増加が見込めると考えているのか。  
→具体的な試算はできないと考えているものの、「メディア」に対する関心は特に若手を中心に広がっているため、そうした層の方々を引きつけることはできると考えている。

- ・ 学会名称を変えると同時に、学会活動の方針もあわせて議論する必要があるのではないか。

→名称をただ変えるのではなく、学会活動自体も変えていく必要があると考えているため、理事会として総会までに議論を行っていきたい。

- ・ 学会名称を変えたあと、学会誌の名称はどうするのか。

→学会名称の変更については今期（37期）理事会で行うものの、学会誌の名称については、学会名称の変更が可決された場合に考える必要がでてくるものである。したがって次期（38期）理事会に引き継ぐ事項となると考えている。

- ・ 現在提案を考えている名称について、仮に商標権などがとられてしまったらどうするのか。

→法人格を持たない当学会には商標権などを登録できないため対抗できないものの、知財の専門家に話を伺うことを考えたい。

## ■審議事項

### ① 第10回理事会議事録（案）について（総務担当）

→議事録案について承認された。

### ② 選挙管理委員選定について（執行部）

→選挙管理委員として国枝智樹会員、松下峻也会員から内諾を得たこと、またもう一人の候補者について連絡を取っているところであることが報告され、国枝・松下会員の選挙管理委員就任について承認された。

### ③ 内川賞委員選定について（執行部）

→内川賞運営委員会のメンバーとして有山輝雄会員、大井眞二会員、大石裕会員、谷藤悦史会員、濱田純一会員、春原昭彦会員、佐藤卓己会員を推挙することが提案され、承認された。

### ④ 日本学術会議問題について（執行部）

→同問題に対して本学会としての声明を発出するに至った経緯について報告がなされた。

### ⑤ 入会申し込みについて（総務担当）

→総務担当理事より、現在は紙ベースで行われている入会申込手続きをデジタル化することを検討する必要があるのではないかと報告された。その際、推薦者や書名の有無についても議論していく必要があることが述べられた。理事会の議論の中で、推薦人制度と学会の公開性の問題をどのように捉えるかなど、将来構想WGや学会事務局で議論を積み重ねていくことが確認された。

### ⑥ 会員の入退会について（総務担当）

→入退会について承認された。

■今後の理事会日程

2021 年

1 月 9 日（土）10 時～12 時 30 分（オンライン）

3 月 6 日（土）10 時～12 時 30 分（オンライン）

5 月 15 日（土）15 時～17 時 30 分（対面＋オンライン／会計監査&予算案）

6 月 5 日（土）春季大会昼食時（対面のみ／37 期最終理事会&選挙）

6 月 6 日（日）春季大会昼食時（対面のみ／38 期第 1 回理事会）

以上